

特別講演 講師略歴



岸本 裕充 (きしもと ひろみつ)

1989年3月 大阪大学歯学部卒業
1989年6月 兵庫医科大学病院臨床研修医（歯科口腔外科）
1996年9月 兵庫医科大学歯科口腔外科学講座 助手
2002年1月～2004年1月 米国インディアナ大学医学部外科ポスドク
2005年4月 兵庫医科大学歯科口腔外科学講座 講師
2009年4月 同 准教授
2013年4月 同 主任教授，現在にいたる

日本口腔外科学会認定 口腔外科専門医， 同 指導医
日本口腔インプラント学会認定 専門医，指導医
ICD制度協議会認定 インфекションコントロールドクター

日本口腔感染症学会 理事長
日本口腔外科学会 理事
日本歯科薬物療法学会 理事
日本口腔リハビリテーション学会 理事
口腔顔面神経機能学会 理事
日本口腔インプラント学会 代議員
日本口腔科学会 評議員
日本口腔ケア学会 評議員
日本顎顔面インプラント学会 運営審議委員
兵庫県病院歯科医会 顧問

抄録

「手術や抗がん剤治療を受ける前には Go To 歯科！」

兵庫医科大学病院 歯科口腔外科

主任教授／診療部長 岸本 裕充

お口は、食べ物の入り口であり、鼻とともに酸素を吸って、二酸化炭素を吐き出す呼吸の出入り口です。なので、お口と近い食道や胃、気管や肺とは「つながっている」というイメージが湧きやすいでしょうが、むし歯や歯周病が心臓や足の関節に影響を及ぼす、と聞くと驚かれるかもしれません。抗がん剤の種類によっては、副作用で髪の毛が抜ける、というのをご存じでしょうが、痛くて食べられないほどの口内炎を生じる場合がある抗がん剤もありますし、抗がん剤以外のお薬で、お口に何らかの影響を及ぼすものも少なくありません。

入院して手術や抗がん剤治療を受けることになると、担当の医師や看護師らから多くの説明を聞き、その病気のことや頭がいっぱいになってしまっても不思議ではありません。「(先生に)お任せします。」と言っていただくことは、医療者にとって「信頼されている」という面でありがたいことなのですが、どうしても「受け身」になってしまう患者さんが多いです。でも、医療においては患者さんが中心であり、「患者参加型」が望ましい、とされています。

手術後に肺炎を起こす患者さんがいるのですが、手術前から口腔ケアをしておくことで、そのリスクを低減できます。自分で歯磨きを頑張ってもらっても効果はあるのですが、プラスとして歯科を受診してレントゲンなど必要な検査を受け、必要なら処置を受けると口腔ケアの効果が上がります。これは手術後の肺炎予防だけでなく、心臓や人工関節の手術前や抗がん剤治療前など、さまざまな患者さんにも推奨されています。

手術前に「しっかりと栄養を摂って体力をつけておこう」と考えることも「患者参加型医療」です。そのためにも歯科を受診し、胃腸の負担を少なくするためにも、しっかりと噛めるお口にしておく方が望ましいですね。ご自身だけでなく、ご家族が病気になった時のサポートの1つとしても、アドバイスしてあげていただきたいお話をします。

シンポジスト 略歴



延原 浩 (のぶはら ひろし)

- 1982年 広島大学歯学部卒業 歯科補綴学第一講座入局
- 1984年 広島大学歯学部助手
- 1985年 県立広島病院歯科勤務
- 1993年 博士（歯学）の学位取得
- 2005年 脳神経外科病棟において口腔ケア・摂食機能療法開始
- 2006年 摂食嚥下チーム活動開始
- 2008年 県立広島病院歯科・口腔外科 部長
- 2008年 広島県歯科医師会と共同して、がん治療における口腔管理連携システム開始
- 2012年 周術期口腔ケアシステム開始
現在に至る

<所属学会>

日本補綴歯科学会（専門医、指導医）、日本顎咬合学会（かみ合わせ指導医）
日本臨床栄養代謝学会（認定歯科医師 学術評議員）、日本外科感染症学会
日本外科代謝栄養学会、日本摂食嚥下リハビリテーション学会
日本口腔ケア学会、日本老年歯科医学会、日本顎関節学会

<口腔ケアに関する主な論文>

- ① 周術期口腔ケアによる消化器外科術後の感染性合併症に対する予防効果
延原 浩 ほか, 外科と代謝・栄養 51(4), 165-174, 2017
- ② Effect of perioperative oral management on the prevention of surgical site infection after colorectal cancer surgery: A multicenter retrospective analysis of 698 patients via analysis of covariance using propensity score
Nobuhara H, et al. Medicine (Baltimore), 2018

抄録

「なぜ手術を受ける人は、全力で口をきれいにする必要があるのでしょうか？」

県立広島病院 歯科・口腔外科部長 延原 浩

口腔ケアをして口の中がきれいになると、肺炎の予防効果があることは比較的良好に知られています。また、口腔がんなど、口の近くを手術する前に口腔ケアをすると、手術部位の感染に対して予防効果があることが報告されています。しかし、口から離れた部位の手術部位感染は、口腔ケアをしても予防できないというのが今までの常識でした。ところが最近、口から離れた部位の手術に対しても、口腔ケアは手術部位の感染を減少させる効果を有することがわかってきました。

消化管の中は無菌にできないため、消化器の手術は他の手術より手術部位感染が起きやすいことが知られています。例えば大腸がんの手術後には10%～20%程度の割合で手術部位感染が起きており、大腸がん手術後の肺炎が約1%であることを考えれば、手術部位感染は肺炎の10倍以上の頻度で起きます。また、膵臓がんなどでは、さらに高い割合で手術部位感染が生じます。術後に手術部位感染が起きると、痛い、動けないなどの苦痛が生じ、場合によっては命の危険が生じます。また、医療費が平均で約86万円増加し、入院日数が平均で約3週間延長します。さらに悪いことに、体に炎症がある状態は、浮遊がん細胞の増殖や生着を促進するため、後でがんの再発や転移が起きやすくなります。ですから、手術部位感染は全力で予防する必要があります。現在、世界中の病院がこの手術部位感染を少しでも減らすために英知を結集し、ガイドラインを作って真剣に予防に取り組んでいます。

当院で口腔ケアと手術部位感染との関係を詳しく調べてみた結果、大腸がんや膵臓がんの手術を受けた人の中で、歯科で専門的な口腔ケアを受けたグループは、受けなかったグループに比べて明らかに手術部位感染が少なく、入院日数も短いことがわかりました。

今日は、手術を受ける人にとって、口の中を清潔に保つことは、全力で、また、ある意味“命がけ”で取り組むだけの価値があること、そのために歯科で専門的な口腔ケアを受ける必要があること、そしてセルフケアをする上で注意すべきポイントなどについてお話したいと思います。

シンポジスト 略歴



東森 秀年（とうもり ひでとし）

修道高校 / 広島大学歯学部 卒業

平成 3 年 広島大学歯学部附属病院 第二口腔外科

（平成 6 年～ 2 年間 公立邑智病院 歯科）

平成 14 年 広島大学大学院 医歯薬学総合研究科 口腔外科学

平成 15 年 広島大学病院 口腔顎顔面再建外科 病棟医長 兼任

平成 18 年 国家公務員共済組合連合会 呉共済病院 歯科口腔外科

〈資格・業績等〉

歯学博士

日本口腔外科学会 口腔外科 指導医・専門医

広島大学歯学部 客員講師

広島県歯科医師会 病院歯科連絡協議会理事

歯科口腔機能管理等研修事業（元 周術期等口腔機能管理検討委員会）委員

呉市骨粗鬆症重症化予防プロジェクト 委員

共著／編著書：5 疾病の口腔ケア／続 5 疾病の口腔ケア（医歯薬出版）

絶対知りたい義歯のこと（医歯薬出版），クイズで学ぶ口腔疾患 123（デンタルダイヤモンド社），歯科評論，デンタルダイヤモンド，他

シンポジウム／ワークショップ：口腔腫瘍学会（新潟），骨粗鬆症学会（長崎），口腔科学会（愛媛），他

特別講演・教育講演：北海道，東京，千葉，埼玉，広島，大分，熊本，他

抄録

「忘れていませんか？お口の健康の管理」

－ 口腔ケアは がんの治療を助けます！ －

国家公務員共済組合連合会 呉共済病院

歯科口腔外科部長 東森 秀年

がんをはじめ さまざまな病気の治療の時に口腔ケア（口腔健康管理）を行うと、術後に合併症（がっぺいしょう）がおこりにくくなり入院日数が短くなります。また、抗がん剤や放射線治療を行うと、その副作用で口内炎がひどくなる場合がありますが、その予防効果も期待できるなどさまざまなメリットがあり、ひいては治療の向上、延命につながります。

これを国も後押しし、平成 24 年度からはこの治療時期における口腔機能管理が健康保険の適応となり、チーム医療の推進とともに歯科における重点課題の 1 つとされました。歯科が継続的に口口の管理を行うことは、口腔機能の回復のみならず、心理面も含めた QOL（クオリティー オブ ライフ＝生活の質）の向上に役立ち、がんが進行してしまった場合でも緩和医療（かんわいりょう）として がん患者を支えるなどその役割は非常に大きいものと思われれます。

広島県歯科医師会では、全国に先立ち平成 20 年に「がん患者の口腔管理」事業を発足させ、演者らは呉市歯科医師会と共に取り組んでまいりました。

現在、日本人の 2 人に 1 人は一生のうちにがんと診断される時代となりました。また、がんはごく初期の標準的なものを除いては 1 回の手術のみで治療が終了することは少なく、化学療法継続や、再発のリスク、また再発はなくても様々な症状が持続する場合もあり、一生付き合っていかななくてはなりません。それゆえ、入院前、入院中、そして退院後と継続的な口腔管理を行うことが重要です。さらに言えば、日常から かかりつけ歯科で、全ての皆様が口腔を健康に保っていれば、がんになってもお口のことであわてることはありません。また、お口の不健康ががんを引き起こすことがあることもわかってきました。

皆様が口をしっかりと管理していただくことにより、全身が健康となり長生きされることを心より願っております。

シンポジスト 略歴



中野 誠 (なかの まこと)

1995年 岡山大学歯学部歯学科 卒業

1999年 岡山大学大学院 修了

2003年7月1日 広島市民病院 歯科口腔外科診療科長として赴任

2015年度 岡山大学歯学部 臨床講師

2016年4月～現在 広島市民病院 歯科口腔外科主任部長

抄録

「安心・安全！広島市民病院における周術期口腔機能管理の地域連携システム」

広島市民病院 歯科・歯科口腔外科主任部長 中野 誠

当院の一般病床の平均在院日数は2012年度には12.0日でしたが2019年度には10.8日となり10%短縮しました。この間に当院で積極的に取り組んだ事の一つに、本シンポジウムのテーマであり2012年度に健康保険導入された周術期口腔機能管理があります。当院では特に全身麻酔の手術前に口腔内環境を整える事を積極的に行っております。2019年1年間の実績で見ると、全身麻酔で予定手術を行った成人の患者さんは4494人でしたが、その95.7%に相当する4303人に対して当科で口腔機能管理を手術の前に実施しておりました。

この様に多くの患者さんに対応するために当院では地域連携システムを採用しており院内、地域、そして患者さんぐるみの協力を得ながら運用しておりますので、私からはその紹介をさせていただきたいと思っております。当院では、全身麻酔で手術する事が決まったら、入院前の準備をサポートする院内の専門部所「入院支援室」から地域の連携している歯科診療所に依頼します。歯科診療所で入院するまでの期間に口の中の環境を整えてもらい、入院後に院内の歯科で引き続き手術前の診察をさせていただきます。歯科診療所では、口の中の環境を確認し治療計画を立て、歯周病の治療、虫歯の治療、義歯の調整、動いている歯の抜歯などを行い口の中の環境を整えてもらっています。手術が決まり入院するまでに1か月以上の猶予がある事は珍しく時間的な制約がありますので、上記全てが難しい場合には歯周病の治療を優先し、歯石を取ってもらう様にお願いしてあります。

入院後の当科での術前診察時には、この時期に口腔内環境を改善する必要性の説明、損傷し易い歯があれば麻酔科と情報を共有する事、染色液による磨き残しの自己確認、そして専門的な口の中のクリーニングを行っております。

当院の周術期口腔機能管理システムは、院内のスタッフだけでなく患者さんと地域の歯科診療所のご理解とご協力により更に効果が上がり、より安心・安全なものになると考えていますので、よろしく御願います。

シンポジスト 略歴



藤原 千尋 (ふじわら ちひろ)

- 平成15年3月 福山歯科衛生士学校卒業
- 平成15年4月 堤歯科医院 (広島県福山市)
- 平成17年6月 同上 退職
- 平成19年4月 フリーランス歯科衛生士
訪問歯科診療における口腔ケア担当
福山市通所型介護予防事業「口腔機能向上事業」(～H24・4月末まで)
- 平成23年4月 福山歯科衛生士学校 非常勤講師 ～現在に至る
- 平成24年5月 独立行政法人国立病院機構福山医療センター
- 平成28年4月 同上 主任歯科衛生士

その他

- 平成23年4月 アルバータ州立大学 再建医科学研修部門
エドモントン公立ミサリコーディア病院 研修
- 平成28年4月 広島県歯科衛生士会 理事
- 平成28年4月 広島県歯科衛生士会 福山・府中地区会 理事
公益社団法人日本歯科衛生士会 認定歯科衛生士
在宅療養指導・口腔機能管理 認定歯科衛生士
研修指導者・臨地実習指導者 認定歯科衛生士
老年歯科 認定歯科衛生士

抄録

「福山医療センターにおける周術期等口腔機能管理の取り組み」

独立行政法人国立病院機構 福山医療センター

主任歯科衛生士 藤原 千尋

現在、日本は超高齢社会を迎えています。超高齢社会に伴い、手術症例を含め入院患者も高齢化しているのが現状です。そのような状況下の中、悪性新生物（がん）を含め全身麻酔下における手術や抗がん剤や放射線治療などがん治療において、口腔内環境を整えることで術後肺炎や創部感染の予防を図る事を目的に周術期等口腔機能管理が導入されました。

私が所属する国立病院機構福山医療センターは、歯科を併設しない病院ですが平成 24 年度より全身麻酔下での手術を受ける患者に対して、かかりつけ歯科医院と連携し周術期等口腔機能管理を実施しています。手術が決まった時点で歯科受診の説明を受けて、入院までの期間に患者さんご自身のかかりつけ歯科医院にて術前の口腔機能管理を実施してきてもらいます。退院後もかかりつけ歯科医院で継続的に口腔管理を実施してもらっています。当院では、入院説明を行う際には歯科衛生士だけでなく、医師、看護師からも周術期等口腔機能管理の必要性が指導されます。入院前に口腔環境を整えておくことで手術中ならびに入院中の口腔トラブルも減少しています。手術を受ける準備の一つとして、治療の一環として口腔環境を整えておくことの大切さを皆様にお伝えしたいと思います。

本発表では、私が経験した症例や周術期等口腔機能管理の中で皆様にしていただきたいポイント、これからの備えなどについてお話したいと思います。本発表が、県民の皆様の周術期等口腔機能管理ならびに今後の口腔健康管理の一助になれば幸いです。